



森と海 of 自然科 活動記録

【野仏 of 佇むシュラインロードを巡る】

- 1.日 時 : 2022年1月6日 10:30~15:30
- 2.集 合 : 六甲ケーブル下駅
- 3.参加者 : 20名
- 4.行 程 : 六甲ケーブル駅発 (10:40) ⇨ 六甲山上駅着 (10:50) ⇨ 六甲ガイドハウス (記念碑台) ⇨ 前ヶ辻⇨シュラインロードを下る (33体の石仏+4体の番外仏) ⇨ 行者堂 (12:10着) ⇨ 公園広場 (13:20着 昼食) ⇨ 神鉄六甲駅 (14:40) ⇨ 地下鉄三宮駅⇨解散



2022年最初の例会は、新春の風が無い、曇り空から青空へと天気に恵まれての活動となりました。

シュラインロードとは、六甲山の古道の一つで、この道の特徴は、路傍にたくさんの野仏が佇み、行者堂と呼ばれる祠が残り神秘的な道です。

この道が開けたのは、江戸時代中頃で、北摂から酒米や農林産物などが運搬され、神戸の海岸地方と内陸部を結ぶ経済の動脈だったようです。

行者堂には役小角、前鬼、後鬼、不動明王が祀られ、現在の石祠は唐櫃村庄屋の鍋屋多右衛門によって文化元年(1804年)に造り替えられたものです。

野盗に襲われたり、事故で犠牲になった人への供養もかねて道中無事、商売繁盛を願って石仏が建立されたのが文政8年(1825年)だそうです。

西国33箇所になぞられて観音様の石仏が安置され、その願主として地元の人々や丹波の杜氏、水車小屋の親方、兵庫の魚屋、五社の酒屋、三木の金物屋が刻まれています。

石仏は33体で無く、37体有ります(4体は番外仏)。毎年8月20日頃、地藏盆の前に唐櫃の女性の方々が奉仕ですべての祠が清掃され、お花と水が供えられます。

今回のシュラインロードのコースは、私自身20数年ぶりの11月の下見を含めて今回で3回目となります。最初に来た時よりも祠への通路の笹等が整理され、何か所かに標識柱が建てられて判りやすく表示され、石仏が確認出来やすくなっていました。

六甲ガイドハウスの記念碑前で集合写真を撮り、前ヶ辻からシュラインロードに入り、

33番仏から32番仏と順に1番仏まで下って行き、一体毎の石仏の資料を見て確認して行きましたが、12番仏が確認出来なかった。又、裏六甲ドライブウェイを超えての9番、10番石仏と、②番外石仏は、時間の都合で行きませんでした。
皆様は、改めて行く機会が有れば未確認の石仏を探しに行かれたら如何でしょう。
確認できた石仏をまとめてファイルにして頂きました。記録と一緒に添付します。



記念碑台前の集合写真



野仏前で確認